道徳教育を考える①

道徳教育と道徳科の指導について

（学習指導要領の枠組みの理解をもとに）

東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室長
教授　　永田　繁雄

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

■ 今回の話題で考えたいこと

1 「特別の教科 道徳」＝道徳科の位置付け
2 道徳教育の目標と道徳科の目標の関係
3 道徳科の目標の構造的な理解
4 道徳科で扱う内容の構成と性格
5 道徳科の指導における配慮事項
6 道徳科の指導で用いる教材について

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

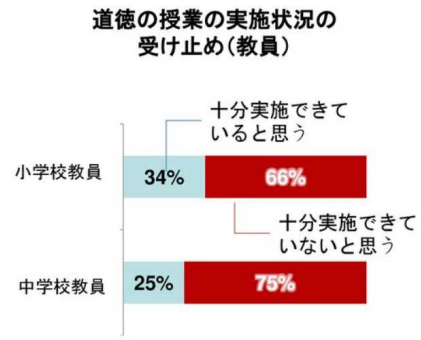
1 「特別の教科 道徳」＝道徳科の位置付け

「道徳の時間」が「特別の教科」である道徳科へと、新たに位置付けられた背景には何があるのか？

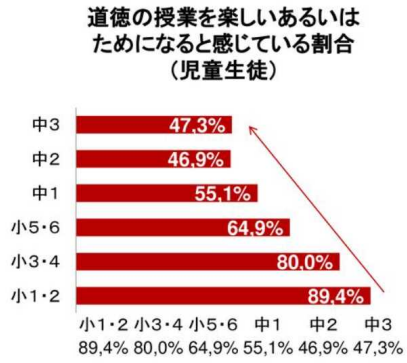
東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

1 「特別の教科 道徳」＝道徳科の位置付け

■ 子供の心の成長の課題が様々に見られる中、道徳教育の実施の実態に課題が強く見られた



（平成２４年　東京学芸大による調査をもとに作成）



（文部科学省道徳教育実施状況調査より）

※左右ともに、文部科学省(2017)「道徳教育の抜本的充実に向けて（行政説明資料）」より抜き出し

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

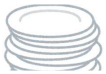
1 「特別の教科 道徳」＝道徳科の位置付け

■ 子供の心の成長の課題が様々に見られる中、道徳教育の実施の実態に課題が強く見られた

▲いまだに道徳教育を忌避しがちな風潮が見られないか。
▲他教科等に比べて軽視され、それらに振り替えられていることはないか。

▲道徳教育の理念や効果的な指導方法が共有されていない。
▲地域間・学校間・教師間の差や、指導のばらつきが大きい。
▲授業方法が、読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがち。
▲学年が上がるにつれて、児童生徒の受け止めがよくない。

量的確保



質的充実

※左右ともに、文部科学省(2017)「道徳教育の抜本的充実に向けて（行政説明資料）」をもとに概要整理

1 「特別の教科 道徳」＝道徳科の位置付け

■「柔軟さ」をキーワードにして、道徳科の授業の可能性をひらく

■ 各学校においては、特定の指導方法を絶対化することなどにより、道徳教育の授業が画一的なものとなったり、教師の一方的な押しつけにつながったりすることのないよう留意しつつ、柔軟でバランスの取れた指導方法の開発・実践に努めていただきたい。

■ 今後、道徳教育の特質を踏まえた多様な授業の在り方について教師間で切磋琢磨し合うとともに、子供たちの多様な実態や発達の段階に即した柔軟な指導方法など、優れた道徳教育の指導方法を生み出していくことが期待される。

柔軟さ → 多様さ → 活力

※文部科学省道徳教育の充実に関する懇談会(2013)「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)」より

1 「特別の教科 道徳」＝道徳科の位置付け

■ 道徳科を、通常の各教科などとは区分して、「特別の教科」として位置付けた

なぜ「特別の教科」なのか	教科の３条件
① 学級担任が担当することが望ましい ～各教科で行う単元学習とは異なる 一人一人の価値観を育む主題学習 ～中学校段階でも教科の免許は置かない	教員免許
② 充実への手掛かりとして教科書を配布する ～指導内容の押さえと計画的実施	教 科 書
③ 数値などによる評価はなじまない ～児童生徒の心の成長力を信じる 人格を尊重した謙虚な評価を維持する	評　価

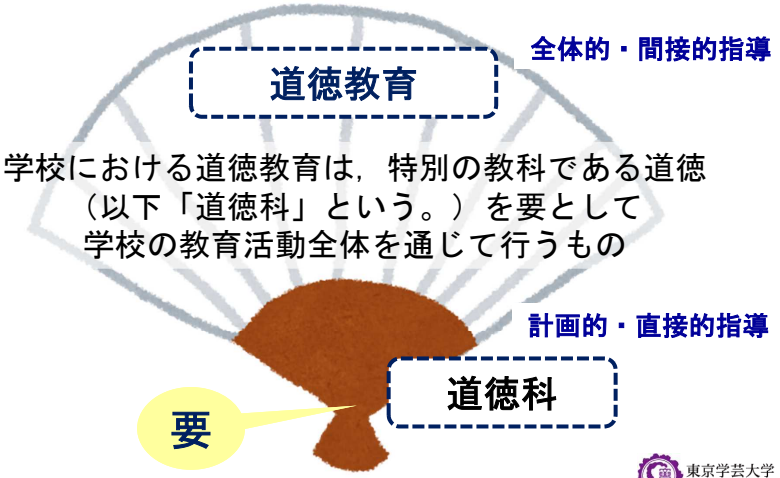
※文部科学省道徳教育の充実に関する懇談会(2013)「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)」より

2 道徳教育の目標と道徳科の目標の関係

道徳教育と、「特別の教科」である道徳科の指導は、どのような関係にあるのか？

2 道徳教育の目標と道徳科の目標の関係

■ 道徳教育と道徳科は「扇」の面と要の関係



2 道徳教育の目標と道徳科の目標の関係

■ 道徳教育の目標の表現と、道徳科の目標

道徳教育の目標

■道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方（中：人間としての生き方）を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

「考え」→「判断し」→「行動し」→
「自立した人間 … 共によりよく生きる」

基盤となる道徳性を養う

2 道徳教育の目標と道徳科の目標の関係

■ 道徳教育の目標の表現と、道徳科の目標

道徳教育の目標

■道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方（中：人間としての生き方）を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ことを目標とする。

道徳科の目標

■ 〈前略〉…道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（中：広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の生き方（中：人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

3 道徳科の目標の構造的な理解

道徳科の目標は、その全体がどのような形で構成され、どんな方向を示しているのだろうか？

3 道徳教育の目標の構造的な理解

■ 道徳科の目標 ～その記述を分けて考えると…

◎ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，
① 道徳的諸価値についての理解を基に，
② 自己を見つめ，
③ 物事を（中：広い視野から）多面的・多角的に考え，
④ 自己の生き方（中：人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して，
⑤ 道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

資質・能力
価値理解
教える

価値観
育む

資質・能力の諸様相

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

3 道徳教育の目標の構造的な理解

■ 道徳科の目標 ～ 道徳性を構成する諸様相とは…

◆ **道徳的判断力**……それぞれの側面において善悪を判断する能力
◆ **道徳的心情**……道徳的価値の大切さを感じ、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
◆ **道徳的実践意欲と態度**…それらによって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性（意志の働きや 行為への身構え）

子供の内面的資質として…
評価の観点とはしない

指導に傾斜や重心をかけながら
子供の中に一体的に育む

※文部科学省(2017)「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編」の内容をもとに要約

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

4 道徳科で扱う内容の構成と性格

道徳科で扱う内容（内容項目）は、どのような構成や性格をもっているのだろうか？

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

4 道徳科で扱う内容の構成と性格

■「道徳の内容項目」小・中学校各段階のキーワード一覧（平成27.3改正）

小学校キーワード ＼ 学年	1,2	3,4	5,6	中学校キーワード	
A 主として自分自身に関すること					
善悪の判断、自律、自由と責任	（1）	（1）	（1）	自主、自律、自由と責任	（1）
正直、誠実	（2）	（2）	（2）		
節度、節制	（3）	（3）	（3）	節度、節制	（2）
個性の伸長	（4）	（4）	（4）	向上心、個性の伸長	（3）
希望と勇気、努力と強い意志	（5）	（5）	（5）	希望と勇気、克己と強い意志	（4）
真理の探究			（6）	真理の探究、創造	（5）
B 主として人との関わりに関すること					
親切、思いやり	（6）	（6）	（7）	思いやり、感謝	（6）
感謝	（7）	（7）	（8）		
礼儀	（8）	（8）	（9）	礼儀	（7）
友情、信頼	（9）	（9）	（10）	友情、信頼	（8）
相互理解、寛容		（10）	（11）	相互理解、寛容	（9）
C 主として集団や社会との関わりに関すること					
規則の尊重	（10）	（11）	（12）	遵法精神、公徳心	（10）
公正、公平、社会正義	（11）	（12）	（13）	公正、公平、社会正義	（11）
勤労、公共の精神	（12）	（13）	（14）	社会参画、公共の精神	（12）
				勤労	（13）
家族愛、家庭生活の充実	（13）	（14）	（15）	家族愛、家庭生活の充実	（14）
よりよい学校生活、集団生活の充実	（14）	（15）	（16）	よりよい学校生活、集団生活の充実	（15）
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	（15）	（16）	（17）	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	（16）
				我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	（17）
国際理解、国際親善	（16）	（17）	（18）	国際理解、国際貢献	（18）
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること					
生命の尊さ	（17）	（18）	（19）	生命の尊さ	（19）
自然愛護	（18）	（19）	（20）	自然愛護	（20）
感動、畏敬の念	（19）	（20）	（21）	感動、畏敬の念	（21）
よりよく生きる喜び			（22）	よりよく生きる喜び	（22）

【改訂時の改善点】

- 共通のキーワードを初めて示した
- 4つの視点を入れ替えた
- 新たな内容項目を加えて充実を図った
- いじめなどの課題への対応の充実を図った
- 各段階間の内容項目の一貫性を高めた
- 筆頭に「善悪の判断」「自主、自律、自由と責任」の項目を置いた

※（ ）数字は「学習指導要領解説」に示された内容小目番号。（各項目の表現は省略）
※ 2015.3改正の内容による。

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

4 道徳科で扱う内容の構成と性格

■ 道徳科の内容項目の基本的性格とは

内容の捉え方

■教師と児童（生徒）が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である。 <中略> …児童(生徒)自らが調和的な道徳性を養うためのものである。　　。

※文部科学省(2017)「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編」の第3章・第1節の1-(1)より

大人の視点で理解させる内容というよりも
児童生徒と教師が共に考える課題（テーマ）と
という性格をもつ

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

5 道徳科の指導における配慮事項

道徳科の指導の在り方について、どのようなことが示されているのか。

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

5 道徳科の指導における配慮事項

別の話題で再度検討

■ 道徳科の指導方法で求められるポイント

●第3章 第3の「内容の取扱い」の(3)～(5)に示すカギとなる表現

(3) 自らを振り返って成長を実感 課題や目標を見付ける 主体的に学習に取り組む	… 主体的な学び
(4) 多様な感じ方や考え方に接する 表現する力を育む　言語活動を充実する	… 対話的な学び
(5) 発達の段階や特性を考慮する 問題解決的、体験的な学習等を取り入れる 学んだ内容の意義などを考える	… 深い学び

※文部科学省(2017)「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）」の第3章・第3の2における(3)(4)(5)の内容をもとに要約

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

6 道徳科の指導で用いる教材について

道徳科の指導で用いる教科書や様々な教材について、どのように生かすとよいのか？

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

6 道徳科の指導で用いる教材について

■ 教材の開発と活用について示していること

■児童（生徒）の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。<以下略>

※小・中学校学習指導要領（平成27年3月）第3章・第3節の3-(1)より

■道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材（郷土資料）など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。※文部科学省(2017)「小・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編」の第4章第4節より抜出し

教科書を中心的教材として「活用」しながら、多彩な教材を生かし合う方向へ

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

6 道徳科の指導で用いる教材について

■ 教科書を計画的に活用しながら、多彩で、いま必要な教材を織り込む

道徳科の教科書

年間の見通しをもち計画を大事にした指導

教科書には郷土色、地域色、学校の重点がない

特色化・重点化・課題への対応

地域教材･放送教材
学校開発教材など
◇学校や郷土の特色ある教育で子供の根を張る力を伸ばす
◇教師自ら開発しながら一部で活用し、授業をいっそう楽しむ

配布は停止、活用は自由

「私たちの道徳」
（「心のノート」）

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University

道徳教育と道徳科の指導について
（学習指導要領の枠組みの理解をもとに）

1 「特別の教科 道徳」＝道徳科の位置付け
2 道徳教育の目標と道徳科の目標の関係
3 道徳科の目標の構造的な理解
4 道徳科で扱う内容の構成と性格
5 道徳科の指導における配慮事項
6 道徳科の指導で用いる教材について

東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
上廣道徳・倫理教育研究開発推進室長
教授　　永田　繁雄

終　了

東京学芸大学 Tokyo Gakugei University